資料 2-1
令和 3 年 7 月 30 日
第 2 回男女共同参画推進会議・
女性活躍推進協議会

第５次としま男女共同参画推進プラン
（素案）

目次

第１章　計画の策定にあたって 1
１　計画の背景 2
（１）策定の目的 2
（２）国の動向 3
（３）東京都の動向 4
（４）豊島区の取組 5
２　計画の性格 6
３　計画の期間 7
４　条例の基本理念と目指すまちの姿 8
（１）条例の改正と最終目標 8
（２）豊島区の目指すまちの姿（計画の目標） 8
５　豊島区配偶者等暴力防止基本計画 9
（１）策定の目的 9
（２）計画の位置付け 9
６　豊島区女性活躍推進計画 9
（１）策定の目的 9
（２）計画の位置付け 9
７　計画の体系図（目標と施策の方向、施策） 10
第２章　計画の内容 12
目標１　すべての人が人権を尊重し、安心して暮らせるまち 13
施策の方向１　ＤＶの根絶と支援体制の充実 13
施策の方向２　性と生に関する健康支援 17
施策の方向３　多様性の尊重と安心して暮らせる環境の整備 20
目標２　あらゆる分野で女性が輝けるまち 24
施策の方向１　働く場における男女平等の推進 24
施策の方向２　家庭生活と仕事の両立の支援 27
施策の方向３　政策・方針決定過程における男女共同参画の推進 31
目標３　すべての人が男女共同参画を学び、行動できるまち 24
施策の方向１　学習・啓発による男女共同参画意識の向上 34
施策の方向２　地域活動における男女共同参画の推進 37
プランの積極的な推進 40

第１章　計画の策定にあたって

1　計画の背景

（１）策定の目的

豊島区では、平成 15 年（2003 年）に「豊島区男女共同参画推進条例」を制定し、これまで男女共同参画社会の実現に向けて取り組んできました。平成 31 年（2019 年）４月には、同条例を改正し、多様な性自認・性的指向の人々が抱える課題を「性別に起因する人権課題」と捉え、同条例の中に位置づけるとともに、パートナーシップ制度を規定しました。同条例の改正の趣旨や基本理念に沿い、すべての人の多様性と人権が尊重されるまちの実現を目指していきます。

また、あらゆる分野で人口の約半分を占める女性の視点が生かされることは、多様性が確保された、誰にとっても暮らしやすい社会の実現につながります。特に、政治の場や職場、地域活動の場など、これまで女性が少ない分野においては、女性のさらなる参画を推進していく必要があります。

一方、令和２年度（2020 年度）に実施した「男女共同参画社会に関する住民意識調査」（以下、「区民意識調査」という）では、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識に否定的な区民の割合が平成 27 年度（2015 年度）から大幅に増加しました。しかし、「今の社会が男女平等になっている」と考えている区民の割合は、平成 23 年度（2011 年度）に実施した調査から減少しており、意識の変化はあるものの、必ずしも実態が伴っていないことが伺えます。政治の場や家庭の中、社会通念・慣習など、社会の様々な場面で未だ男性の方が優遇されていると感じている人が多い状況にあるため、あらゆる場面、あらゆるライフステージで男女共同参画について学ぶことが必要です。

さらに、人生 100 年時代の到来が言われる現代において、持続可能な働き方を実践することは自己実現につながり、生涯にわたって豊かな人生をもたらすと考えられるため、誰もが希望に応じた働き方や生き方を選択できることが求められます。そのため、ワーク・ライフ・バランスのさらなる推進を図るとともに、育児・介護休業を取得しやすい環境やハラスメントの防止など、働く場における男女平等を推進することが重要です。

一方また、少子高齢化や人口減少が進む中で、女性の活躍を推進するために保育の受け皿の整備など様々な取組みを推進してきた結果、女性の社会進出が進んだ反面、女性は経済社会における男女が置かれた状況の違い等を背景として、貧困等の生活上の困難に陥りやすいことが指摘されています。また、女性に対する暴力は重大な人権侵害です。配偶者等による暴力（ＤＶ）は深刻な社会問題となっていますが、貧困や暴力等を根絶し、すべての人の人権が尊重され、安心して暮らせるまちづくりが求められます。

令和２年（2020 年）７月には、ＳＤＧｓ未来都市に選定されました。今後、男女共同参画をはじめとする様々な取組みを推進し、ジェンダー平等の実現などＳＤＧｓの個別の目標達成とともに、誰一人取り残さない社会の実現を目指していきます。

こうした背景の下、区民の男女共同参画意識のさらなる向上やＤＶの根絶、女性の活躍に向けて取り組むべき施策・事業を総合的かつ体系的に推進するために、第５次豊島区男女共同参画推進行動計画、第３次豊島区配偶者等暴力防止基本計画及び第２次豊島区女性活躍推進計画を策定しました。

（２）国の動向

■改正育児・介護休業法の施行

平成 29 年（2017 年）１月１日及び 10 月１日に、改正育児・介護休業法が施行され、介護休業の分割取得や有期契約労働者の育児休業取得要件の緩和、育児休業取得期間の延長、育児目的休暇制度の努力義務創設などが定められています。

また、令和元年（2019 年）12 月には、改正育児・介護休業法施行規則及び改正指針が公布され、令和３年（2021 年）１月１日より、育児や介護を行う労働者が、子の看護休暇や介護休暇を時間単位で取得することができるようになりました。

■政治分野における男女共同参画の推進に関する法律の公布・施行

平成 30 年（2018 年）５月、政治分野における男女共同参画を効果的かつ積極的に推進し、男女が共同して参画する民主政治の発展に寄与することを目的に、政治分野における男女共同参画の推進に関する法律が公布・施行されました。令和３年（2021 年）６月には、政治分野への女性の参画は徐々に進められているものの、諸外国と比べると大きく遅れていることや、男女を問わず、立候補や議員活動等をしやすい環境整備などが必要であることを背景に、改正が行われ、政党その他の政治団体の取組みの促進、国・地方公共団体の施策の強化、関係機関の明示、国・地方公共団体の責務等の強化などが示されています。

■配偶者暴力防止法の一部改正

配偶者暴力防止法の一部改正を含む児童虐待防止対策の強化を図るための児童福祉法等の一部を改正する法律が令和元年（2019 年）６月に成立しました。この改正によって、児童虐待防止対策及び配偶者からの暴力の被害者の保護対策の強化を図るため、児童虐待と密接な関連があるとされるＤＶの被害者の適切な保護が行われるよう、相互に連携・協力すべき関係機関として児童相談所が明文化されました。また、その保護の適用対象として被害者の同伴家族が含まれることも明確になります。

■職場におけるハラスメント防止対策の強化

男女雇用機会均等法、育児・介護休業法により、職場におけるセクシュアル・ハラスメント、マタニティハラスメントの防止措置が義務付けられています。また、労働施策総合推進法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法が改正され、令和２年（2020 年）６月１日より、職場におけるハラスメント対策が強化されました。パワーハラスメントについては、①優越的な関係を背景とした、②業務上必要かつ相当な範囲を超えた言動により、③就業環境を害することと定義し、パワーハラスメント防止のために、事業主に対して相談体制の整備等の雇用管理上の措置を講じることを義務付けています。

また、性的指向・性自認に関する言動や望まぬ暴露である、いわゆる「アウティング」は、上記の定義の３つの要素を満たす場合に、職場におけるパワーハラスメントに該当します。さらに、セクシュアル・ハラスメントについては、セクシュアル・ハラスメント等に関する国、事業主及び労働者の責務の明確化や事業主に相談した労働者に対する不利益扱いの禁止などが定められています。

■第５次男女共同参画基本計画

令和２年（2020 年）12 月に「第５次男女共同参画基本計画～すべての女性が輝く令和の社会へ～」が閣議決定されました。第５次計画では、目指すべき社会として以下の４つを提示し、その実現を通じて、男女共同参画社会基本法が目指す男女共同参画社会の形成を促進していくとしています。

【目指すべき社会】

①男女が自らの意思に基づき、個性と能力を十分に発揮できる、公正で多様性に富んだ、活力ある持続可能な社会

②男女の人権が尊重され、尊厳を持って個人が生きることのできる社会

③仕事と生活の調和が図られ、男女が共に充実した職業生活、その他の社会生活、家庭生活を送ることができる社会

④あらゆる分野に男女共同参画・女性活躍の視点を取り込み、ＳＤＧｓで掲げられている包括的かつ持続可能な世界の実現と軌を一にした取組を行い、国際社会と協調する社会

（３）東京都の動向

■東京都男女平等参画推進総合計画の策定

平成 29 年（2017 年）３月に、東京都男女平等参画推進総合計画が策定されました。同計画は、「東京都女性活躍推進計画」及び「東京都配偶者暴力対策基本計画」の両計画で構成し、男女共同参画社会基本法に基づく都道府県男女共同参画計画及び東京都男女平等参画基本条例に基づく行動計画として策定されました。また、同計画では、ポジティブ・アクションの促進やワーク・ライフ・バランスの実現、働く場にとどまらない活動機会の拡大、男女間のあらゆる暴力の根絶に向けた多様な主体による取組みを中心に進めていくとしています。

■東京都子供への虐待の防止等に関する条例

平成 31 年（2019 年）４月からは、東京都子供への虐待の防止等に関する条例が施行されています。同条例は、社会全体で虐待の防止に関する理解を深め、その防止に関する取組みを推進し、虐待から子供を断固として守ることを目指し、制定されました。

■東京都性自認及び性的指向に関する基本計画の策定

東京都では、平成 31 年（2019 年）に性自認及び性的指向に関して、基本的な考え方、これまで取り組んできた施策、今後の方向性等を明らかにした、東京都性自認性的指向に関する基本計画を策定しました。同計画では、性自認及び性的指向を理由とする不等な差別の解消及び啓発、教育等を推進するため、「声を上げられない当事者に寄り添い、多様な性のあり方を尊重し合う風土を醸成し、オール東京で誰もが輝ける社会を実現する」という基本方針の下、必要な取組みを推進していくとしています。

（4）豊島区の取組

区ではこれまで、以下のような取組みを行ってきました。

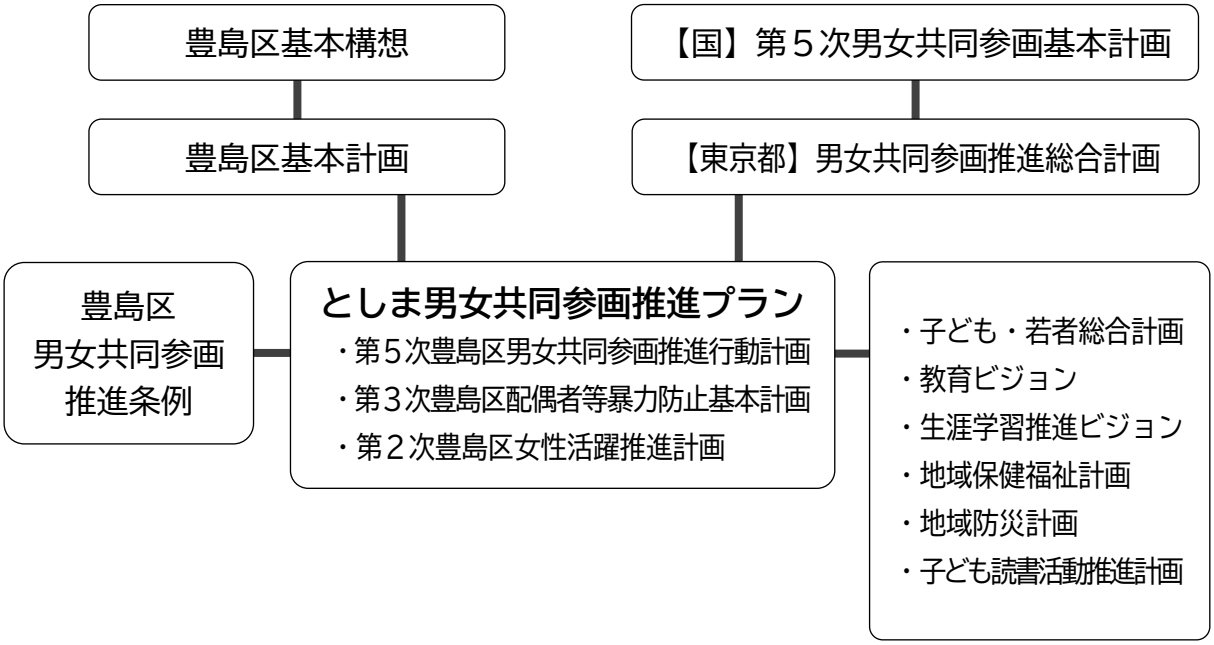
年	動き	内容
昭和 63 年（1988年）	「男女共同社会をめざして～としま 150 プラン～豊島区婦人行動計画」策定	豊島区婦人行動計画策定委員会設置 としま 150 プラン区民会議設置（平成元年（1989 年））
平成４年（1992年）	豊島区立男女平等推進センター開設	豊島区男女平等推進センター運営委員会設置 講演、講座、総合相談などの事業を実施
平成 13 年（2001年）	「第２次としま男女共同参画推進プラン」策定	豊島区男女共同参画推進会議設置
平成 14 年（2002年）	豊島区男女共同参画都市宣言採択	区民一人ひとりの人権が性別などの違いにかかわりなく尊重され、その人らしく暮らしていけるまちの実現をめざすことを宣言
平成 15 年（2003年）	豊島区男女共同参画推進条例制定	男女共同参画社会の実現を目指し、６つの基本理念を定める
平成 24 年（2012年）	「第３次としま男女共同参画推進プラン」策定	計画の一部を「豊島区配偶者等暴力防止基本計画」として位置付け、「性的少数者の人々への理解の促進」を事業として掲示
平成 25 年（2013年）	虐待と暴力のないまちづくり宣言採択	家庭内や親密な間柄で起きる虐待や暴力のないまちを目指すことを宣言。全国初の都市宣言
平成 28 年（2016年）	「第４次としま男女共同参画推進プラン」策定	計画の一部を「豊島区女性活躍推進計画」として位置付け
平成 30 年（2018年）	「審議会における女性委員の比率向上計画」策定	令和３年度（2021 年度）末までに女性委員比率 40%以上を目標とした計画を策定
平成 31 年（2019年）	豊島区男女共同参画推進条例改正	パートナーシップ制度を位置付け、基本理念として、「性と生殖に関する健康と権利の尊重」、「性自認又は性的指向の尊重」を追加
令和２年（2020年）	「ＳＤＧｓ未来都市」・「自治体ＳＤＧｓモデル事業」に選定	東京の自治体で初めてダブル選定され、2030 年までに達成すべき様々な課題に向けて取組みを推進する

２　計画の性格

本行動計画は、豊島区男女共同参画推進条例第 10 条に基づき策定する行動計画であり、国の男女共同参画社会基本法第９条ならびに第 14 条に規定する市町村男女共同参画計画として位置付けます。

また、本行動計画の目標１の施策の方向（１）「ＤＶの根絶と支援体制の充実」の部分は、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律第２条の３第３項に規定する「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護のための施策の実施に関する基本的な計画（市町村基本計画）」に相当するほか、本行動計画の目標２「あらゆる分野で女性が輝けるまち」の部分は、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律第６条の２に規定する「女性の職業生活における活躍の推進に関する施策についての計画（市町村推進計画）」に相当するものです。

さらに、本行動計画は「豊島区基本計画」の分野別計画であり、豊島区における男女共同参画の推進にかかる理念や基本的な方向を明らかにしており、区民、事業者、区が協働して男女共同参画社会の実現を目指す指針としての役割を担うものです。施策の推進にあたっては、その他の区の分野別計画との整合性を図っています。



3　計画の期間

本計画の期間は、令和４年度（2022 年度）から令和８年度（2026 年度）までの５年間です。なお、本計画に包含される第３次豊島区配偶者暴力等防止基本計画及び第２次豊島区女性活躍推進計画も令和４年度（2022 年度）から令和８年度（2026 年度）までの５年間を計画期間としています。

	令和４年度（2022 年度）	令和５年度（2023 年度）	令和６年度（2024 年度）	令和７年度（2025 年度）	令和８年度（2026 年度）
第5次としま男女共同参画推進プラン					
第５次豊島区男女共同参画推進行動計画	→	→	→	→	→
第３次豊島区配偶者等暴力防止基本計画	→	→	→	→	→
第２次豊島区女性活躍推進計画	→	→	→	→	→
豊島区基本計画	→	→	→	→	

4　条例の基本理念と目指すまちの姿

（1）条例の改正と最終目標

豊島区では、平成 15 年（2003 年）に「豊島区男女共同参画推進条例」を制定し、基本理念並びに豊島区、区民及び事業者の責務を明らかにするとともに、男女共同参画の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進してきました。また、多様な性自認・性的指向の人々が抱える課題を「性別に起因する人権課題」と捉え、同条例の中に位置づけるとともに、パートナーシップ制度に関する規定を追加するなど、平成 15 年（2003 年）の条例制定以降の社会状況に対応するため、平成 31 年（2019 年）に同条例の改正を行いました。改正に伴い、同条例の基本理念に新たに、「性と生殖に関する健康と権利の尊重」、「性自認又は性的指向の尊重」の２つの項目が加えられています。

同条例においては、家庭、職場、学校、地域社会などあらゆる場において、性別等に起因する人権侵害を受けることなく、１人ひとりがその人らしく、分かち合い助け合い、ともに暮らす「男女共同参画社会」の実現を目指しています。様々な施策を通し、その実現を図ることを同条例及び条例に基づく本行動計画の最終目標としています。

■豊島区男女共同参画推進条例

①最終目標

豊島区の男女共同参画社会の実現

②基本理念

Ⅰ　すべての人の自立と人権の尊重
Ⅱ　社会活動における選択の自由確保
Ⅲ　決定過程への参画促進
Ⅳ　性と生殖に関する健康と権利の尊重
Ⅴ　家庭生活と社会生活の両立
Ⅵ　外国人に対する基本理念の実現
Ⅶ　性自認又は性的指向の尊重
Ⅷ　幼児教育、学校教育及び生涯学習の取組

（2）豊島区の目指すまちの姿（計画の目標）

基本理念に基づく豊島区の目指すまちの姿は、以下の３つです。

1．すべての人が人権を尊重し、安心して暮らせるまち

すべての人が暴力や差別、偏見などの人権侵害を受けることがなく、また、貧困などの生活上の困難を抱えることなく、安心して健康的な生活を送ることができるまちを目指します。

2．あらゆる分野で女性が輝けるまち

職場や家庭、地域など社会のあらゆる分野において、また、政策や方針を決定する過程において、多様な視点や新しい価値観を反映させるため、男女が対等に参画し、責任を負うまちを目指します。

3．すべての人が男女共同参画を学び、行動できるまち

すべての人が、あらゆる場における学びを通して、男女平等や男女共同参画の意識を形成するとともに、地域における様々な活動に男女共同参画の視点をもって参加することができるまちを目指します。

5　豊島区配偶者等暴力防止基本計画

（１）策定の目的

豊島区では、平成 15 年（2003 年）に「豊島区男女共同参画推進条例」を制定し、性別に起因する差別的取扱いなどの人権侵害を行ってはならないと規定しました。そして、平成 24 年（2012 年）には「豊島区配偶者等暴力防止基本計画」を策定し、国や東京都の動きと合わせながらＤＶ被害防止の取組みを推進してきました。しかし、区民意識調査によると過去５年間でおよそ１割の区民がＤＶなどの暴力を受けた経験がある一方、区の相談窓口の認知度はおよそ半数に留まっています。また、近年の法改正の趣旨などを踏まえ、ＤＶの防止と被害者の保護とともに、児童相談所との連携など児童虐待防止対策を推進することも期待されます。

このような背景の下、区民・団体・事業者等が一体となってＤＶの根絶に向けた、さらなる取組みを推進するため、第５次プランと一体となった「第３次豊島区配偶者等暴力防止基本計画」を策定しました。

（２）計画の位置付け

第５次プランでは、男女共同参画の実現を図るとともに、あらゆる暴力を根絶することを目指し、目標Ⅰの施策の方向（１）「ＤＶの根絶と支援体制の充実」を「第３次豊島区配偶者等暴力防止基本計画」と位置付けます。

本計画は、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（以下「配偶者暴力防止法」という）」（平成 13 年（2001 年）施行）第２条の３第３項に基づく、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護のための施策の実施に関する基本的な計画（市町村基本計画）」に相当するものであり、策定にあたっては「東京都配偶者暴力対策基本計画」など上位関連計画との整合を図っています。

6　豊島区女性活躍推進計画

（１）策定の目的

近年、女性の就業率が増加する中、その個性と能力を十分に発揮できる環境を整備することを目的に、平成 27 年（2015 年）年「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が制定されました。

そのため、豊島区では平成 29 年（2017）年に「女性活躍推進計画」を策定し、ワーク・ライフ・バランスの推進、子育てや介護支援施策の充実、管理監督者への女性の積極的な登用に力を入れてきました。しかし、区民意識調査によると「育児・介護休業制度を取得しやすい」と思う人の割合はおよそ６割となっており、未だ十分とは言えない状態です。

こうした現状の下、区における女性の活躍推進とあらゆる分野の政策・方針決定過程への参画を測るため、第５次プランと一体となった「第２次豊島区女性活躍推進計画」を策定しました。

（２）計画の位置付け

第５次プランでは、男女共同参画の実現を図るとともに、女性の職業生活における活躍の一層の推進を目指し、目標２「あらゆる分野で女性が輝けるまち」を「第２次豊島区女性活躍推進計画」と位置付けます。

本計画は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」第６条の２に基づく、「女性の職業生活における活躍の推進に関する施策についての計画（市町村推進計画）」に相当するものであり、策定にあたっては「東京都女性活躍推進計画」など上位関連計画との整合を図っています。

7　計画の体系図（目標と施策の方向、施策）

【将来像】　【目　標】　【施策の方向】

●●●●●●●●●●●●

【豊島区配偶者等暴力防止基本計画】

すべての人が人権を尊重し、安心して暮らせるまち

（１）ＤＶの根絶と支援体制の充実

（２）性と生に関する健康支援

（３）多様性の尊重と安心して暮らせる環境の整備

【豊島区女性活躍推進計画】

あらゆる分野で女性が輝けるまち

（１）働く場における男女平等の推進

（２）家庭生活と仕事の両立の支援

（３）政策・方針決定過程における男女共同参画の推進

すべての人が男女共同参画を学び、行動できるまち

（１）学習・啓発による男女共同参画意識の向上

（２）地域活動における男女共同参画の推進

プランの積極的な推進

【施　策】

①区民及び職務関係者に対する啓発の促進
②早期相談・早期発見体制の充実
③被害者保護体制の充実・整備
④配偶者等暴力防止施策の充実
⑤被害者の自立支援

⑥リプロダクティブ・ヘルス／ライツの啓発と支援
⑦生涯を通じた健康づくりの推進

⑧メディア・リテラシーの向上
⑨性の商品化・売買春のないまちづくりの推進
⑩生活上の様々な困難を抱える人々への対応
⑪多様な性自認・性的指向に対する理解促進

⑫雇用機会の拡大、就職及び再就職への支援
⑬雇用の場における男女平等の推進

⑭ワーク・ライフ・バランスの推進
⑮子育て支援の充実
⑯育児と仕事を両立させるための環境整備の推進
⑰介護を支える環境整備の推進

⑱政策・方針決定の場への女性の積極的な登用
⑲管理・監督者への女性の積極的な登用と職域の拡大

⑳学校における男女平等教育・学習の推進
㉑家庭・地域・職場における男女平等意識の普及・啓発

㉒地域生活・地域活動における男女共同参画の推進
㉓自主的な活動への支援とネットワーク化の推進

㉔エポック１０機能の充実
㉕男女共同参画についての行政職員・教職員の意識形成の促進

第２章　計画の内容

目標１　すべての人が人権を尊重し、安心して暮らせるまち

施策の方向１　ＤＶの根絶と支援体制の充実

現状と課題

女性に対する暴力のうち、特に配偶者や恋人など親しい関係にあるものからの暴力が重大な人権侵害であり犯罪であるという認識が必ずしも社会的に共有されていない現状があります。

配偶者等からの暴力は、女性の被害者が多く、家庭内で起きることから、周囲に気づかれにくく、被害が深刻化・長期化しやすいという特性があります。また、身体的暴力のみならず、精神的暴力、性的暴力も、被害者の心理、行動に深刻な影響を与えることが問題視されています。

さらに、子どもの前でのＤＶは児童虐待にあたり、ＤＶが起きている家庭では、子どもに対する虐待も同時に行われている場合があることも指摘されています。加えて、ＤＶの被害者が経済的な不安や子どもの養育などを背景に、その状況から抜け出せない場合もみられるほか、DV を受けた経験のある者が親となって加害を行うリスクもあるなど、DV や虐待は次世代へ広く連鎖していくリスクを高めるということが、十分に理解されているとはいえません。

このような状況に対し豊島区では、「虐待と暴力のないまちづくり宣言」（2013 年）を行うなど様々な取組みを進めてきましたが、その取組みや体制整備は一定の進展は見られるものの、女性に対する暴力の根絶が十分に進んだとはいえません。

こうした中、令和２年（2020 年）からの新型コロナウイルス感染症の拡大では、配偶者からの暴力や性暴力の急増等、社会の中のジェンダーの課題があらためて浮き彫りになりました。

被害者の安全確保や生活再建支援は身近な自治体である区の責務です。そして何より、このような状況を変革し暴力を根絶していくためには、どのような理由があっても暴力をいけないという暴力を容認しない社会風土を醸成するための取組みを、区民・団体・事業者等が一体となって強力に推進していく必要があります。

施策の方向の考え方

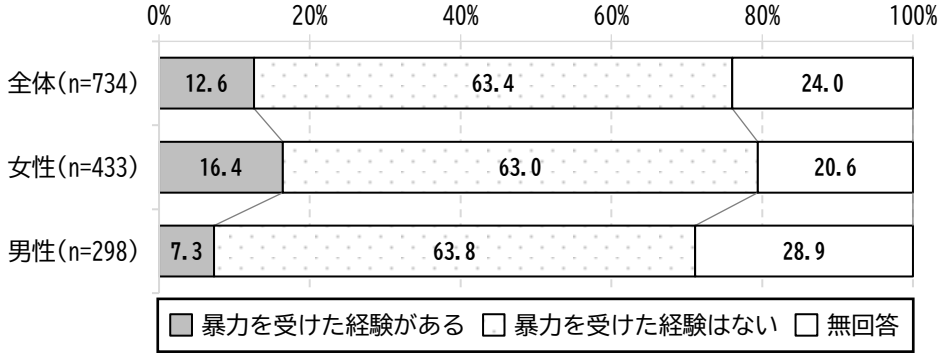
●女性に対する暴力が個人的な問題ではなく、固定的役割分担意識や社会的地位、経済力等の力の差などを背景にして起こる構造的な社会問題だということを踏まえ、男女平等意識の醸成を図るとともに、区民だけではなく区職員も含めた豊島区全体で、ＤＶに対する理解や認識を深めることが重要です。

●精神的暴力は暴力であるとの認識がされづらい反面、被害者は自責感情やうつ病など精神的に大きな影響を受けることがあるため、区民及び区職員に対して、どのような行為が暴力にあたるのかを周知するなど、ＤＶの根絶に向けた啓発を行います。また、早期発見・早期相談の取組みの推進により、加害行為の長期化、深刻化を未然に防ぎます。

●ＤＶ被害者の支援にあたっては、早期発見から自立支援まで切れ目のない支援体制の構築が

重要になります。ＤＶ被害者は精神的にも大きな被害を受けていることも考えられるため、被害者に寄り添った心のケアなど、それぞれの場面における施策の充実を図ります。また、ＤＶは児童虐待と密接に関連していることが指摘されているため、関係機関や民間団体等との連携強化を図り、被害者の状況に即した支援をします。

◇過去５年間でＤＶを受けたことがある人の割合



資料：豊島区「男女共同参画社会に関する住民意識調査」（令和２年）より

ＤＶやハラスメント等に関するグラフが入ります。

指　標

評価指標名	データの根拠	現状値 （令和３年度）	計画目標 （令和８年度）
●●●●●●●●●●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	●%	●%

施　策

施策①　区民及び職務関係者に対する啓発の促進

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策②　早期相談・早期発見体制の充実

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策③ 被害者保護体制の充実・整備

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策④ 配偶者等暴力防止施策の充実

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策⑤ 被害者の自立支援

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策の方向２ 性と生に関する健康支援

現 状 と 課 題

誰もが生涯を通して身体的、精神的、社会的に良好な健康状態であること、男女が互いに性差を十分に理解しあい、性と生殖に関して相手を尊重することが望まれます。特に女性においては、思春期、妊娠出産期、更年期、高齢期など、男性とは異なる心身の変化がある特性があるため、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点は重要です。

「豊島区の保健衛生」により、平成 27 年度（2015 年度）と令和元年度（2019 年度）を比較すると、20 歳未満の人工妊娠中絶の割合は横ばいで推移しています。また、性感染症の陽性率は、男性が半減しているのに対して、女性は増加している状況です。

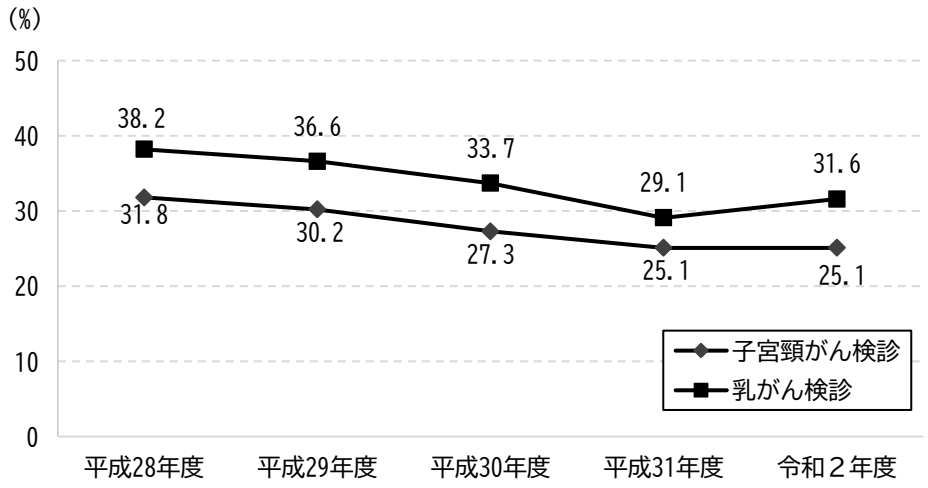
性と生に関する健康支援の取組みとして、区では、子宮頸がん検診や乳がん検診、性感染症対策などを実施しています。しかし、そのような取組みを知っている区民は、およそ６割となっています。女性の健康と妊娠・出産等に関する権利が適切に守られるよう、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの知識と意識が区民に浸透する取組みが重要です。さらに、性と生を踏まえた健康については、個別の対策を講じることに加えて、性に関する知識やスキルだけではなく、人格やジェンダー、多様性などを踏まえたいわゆる「包括的性教育」の普及が重要です。すべての区民が生涯を通して健康に過ごすためには、日常からの病気予防や早期発見、健康増進が重要です。区が行っている検診等の取組みが区民に適切に伝わるよう、周知や啓発の推進とともに、性差やライフステージに応じた健康づくりの支援の充実が求められます。

施策の方向の考え方

●リプロダクティブ・ヘルス／ライツについて、「包括的性教育」を踏まえた普及啓発とともに、ライフステージに応じた正しい知識の普及啓発を行います。

●生涯を通じた健康づくりにあたっては、検診の充実とともに性差に応じた適切な保健医療サービスの情報提供を目指します。

◇子宮頸がん検診・乳がん検診の受診率



資料：豊島区地域保健課調査より

健康支援等に関するグラフが入ります。

指　標

評価指標名	データの根拠	現状値 （令和３年度）	計画目標 （令和８年度）
●●●●●●●●●●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	●%	●%

施　策

施策⑥ リプロダクティブ・ヘルス／ライツの啓発と支援

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策⑦ 生涯を通じた健康づくりの推進

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策の方向３　多様性の尊重と安心して暮らせる環境の整備

現状と課題

社会の制度や慣行の中には、女性や子どもなどに対しての偏見や差別が未だに残っていることが少なくありません。性別や年齢だけではなく、経済社会的な状況も含め、複合的に困難な状況に置かれている場合もあります。また、インターネットやＳＮＳなどの新たなコミュニケーションツールの広がりにより、新たな課題やリスクも見られます。偏見や差別、生活上の様々な困難をなくし、すべての人の多様性が認められた安全安心な社会の実現が求められます。

インターネットの普及は、誰もが様々な情報に簡単にアクセスすることを可能としましたが、そうした情報の中には、誤った性知識や性差に関する無意識の偏見、性別役割分担意識を助長するものも溢れています。

様々なメディアが伝える情報を無批判に受け取るのではなく、自ら考え、理解し、正しく活用する力が必要です。

男女が置かれた経済社会的な状況の違い等を背景として、女性は貧困等の生活上の困難に陥りやすいことが指摘されています。さらに、「女性であること」の生きづらさに加え、障害や高齢等複合的な困難を抱えやすいことに留意し、セーフティネットを構築する必要があります。

また、近年性自認・性的指向の多様性が認知され始めていますが、誤った知識による偏見や差別により、悩みを抱えている当事者や家族がいます。

豊島区では、「豊島区男女共同参画推進条例」を改正し、パートナーシップ制度を位置付けるなど、区民が性別等にかかわりなく、一人ひとりの個性が尊重され、自分らしく生きることができるまちを目指し、取組みを推進しています。しかし、「住民意識調査」においても、「友人が性的少数者だと知った場合、変わらずに接することができる」と回答した区民は６割にとどまっています。

こうしたことから区民が安心して暮らせるまちを目指して、あらゆる場面における人権意識の向上や多様性を尊重する意識の啓発などにより、差別や偏見を解消することが求められます。

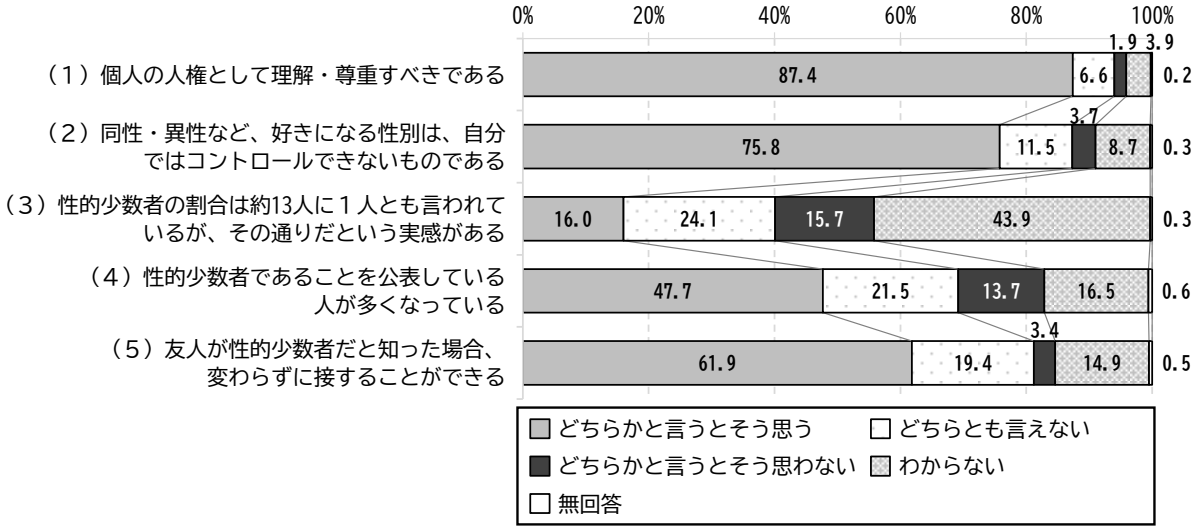
施策の方向の考え方

●子どもを含め、情報を読み解く能力及び適切に発信する能力の向上を図るとともに、女性の人権を侵害する性表現の氾濫の防止に向けて、メディア・リテラシーの向上を図ります。

●性犯罪や「性の商品化」のないまちを目指した整備とともに、安心安全に係る的確な情報発信を図ることで区民の理解の増進につなげます。

●性別や性自認・性的指向に基づく差別や偏見の解消に向けた啓発活動の推進のほか、社会・経済的な困難に直面している人に対する経済的な支援など、多角的な取組みを推進します。

◇性的少数者に対する認識



資料：豊島区「男女共同参画社会に関する住民意識調査」（令和２年）より

様々な困難を抱える人や性的少数者等に関するグラフが入ります。

指　標

評価指標名	データの根拠	現状値 （令和３年度）	計画目標 （令和８年度）
●●●●●●●●●●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	●%	●%

施　策

施策⑧ メディア・リテラシーの向上

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策⑨ 性の商品化・売買春のないまちづくりの推進

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策⑩ 生活上の様々な困難を抱える人々への対応

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策⑪ 多様な性自認・性的指向に対する理解促進

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

目標２ あらゆる分野で女性が輝けるまち

施策の方向１ 働く場における男女平等の推進

現状と課題

働く場において、性別によらずそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる職場環境づくりに取り組むことは、将来にわたって持続可能な社会の構築につながります。

働く女性の増加に伴って、女性が働き続けるための法制面での整備は進んでいますが、現実には結婚、出産、育児を機に仕事から離れる傾向は解消されていません。さらに出産・子育て期を経て、再び就業率が上昇する、いわゆるM字カーブが全国的に以前より緩やかになってきている傾向が見られますが、区においては、この年代の就業率の減少傾向が続いており、復職する女性も少ないことが推察されます。一方、区民意識調査では、最も望ましい働き方として「子育て期間を含めて職業を持つ（職業継続型）」と回答した女性が約５割となっていることから、希望と現実に隔たりがあるものと思われます。

また、職場における男女平等の状況を見ると、およそ６割の区民が男性の方が優遇されていると感じており、職場が男女平等になっていると感じているのは、２割未満となっています。加えて、セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたことや見聞きしたことがある人は、およそ４割に上るなど、職場における男女平等の実現に向けさらなる取組みが必要です。

女性が自身の望む形で就業を継続できることや、再就職・起業等のキャリアを選択する機会が得られることは、個人の経済的な自立や自己実現の上で重要です。そのためには、在宅勤務やフレックスタイム制度などの柔軟な勤務制度を導入し、出産・育児、介護といったライフイベントを経ても仕事を続けられるよう環境を整備することや再就職・起業に向け必要な情報やスキルの取得を支援するなどの取組みが必要です。また、性別を問わず、ハラスメントや均等待遇に関する理解を深めるよう、区民や事業者への啓発が求められます。

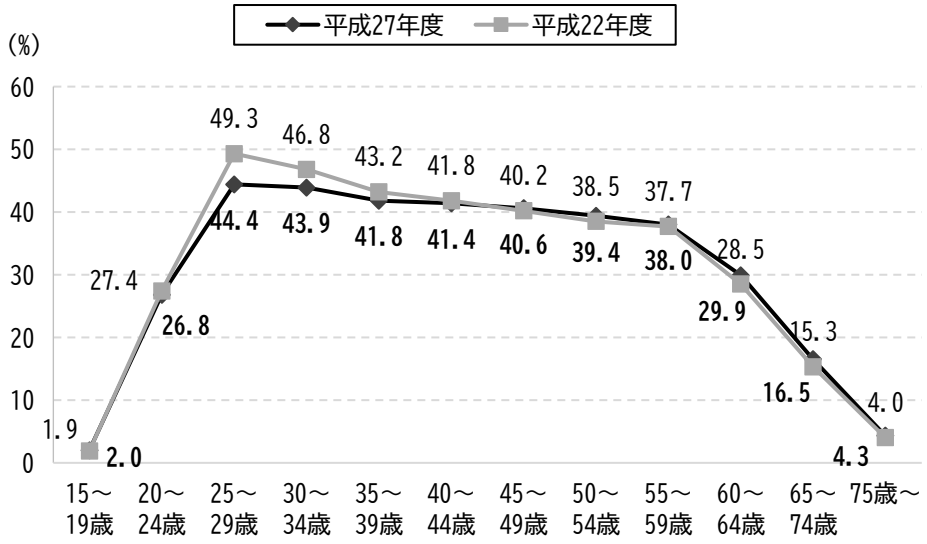
施策の方向の考え方

●出産・育児等を理由に離職することなく就労を継続できる環境整備や均等待遇・ハラスメント防止のため、区民や区内企業に対し、情報提供と啓発を行います。

●出産・育児等を機に離職した女性の再就職に関して、関係機関と連携し、スキルアップなどの講座を開催するとともに、就職活動のための情報提供を行います。

●起業を希望する女性に対して、起業に関するノウハウを学ぶ講座を開催するとともに、起業家同士の交流の促進を図ります。

◇年齢階層別女性の就労状況



資料：平成 27 年国勢調査より

雇用の場における男女平等に関するグラフが入ります。

指　標

評価指標名	データの根拠	現状値 （令和３年度）	計画目標 （令和８年度）
●●●●●●●●●●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	●%	●%

施　策

施策⑫ 雇用機会の拡大、就職及び再就職への支援

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策⑬ 雇用の場における男女平等の推進

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策の方向２ 家庭生活と仕事の両立の支援

現 状 と 課 題

「人生 100 年時代」と言われている現代、一人ひとりが自分らしく、より豊かに過ごすためには、家庭生活と仕事の調和を図り、それぞれの価値観やライフステージに応じた多様な生き方が選択できる社会の実現が必要です。しかし、現実は男性・正社員における長時間労働、男女の賃金格差、非正規労働者の増加など、労働をめぐる環境は厳しさを増しています。

区民意識調査の結果では、男性は女性よりも長時間働く傾向が見られ、さらに、職場で育児・介護休暇を取得することが難しいと感じています。特に、育児・介護休暇を取得することにためらう理由として「昇進・昇格に不利になる」と回答した女性は０人であったのに対し、男性は２割を超えており、男性が積極的に家事・育児等に参加することへの周囲の理解や制度の実行性に課題があると考えられます。一方、女性は子育てや介護のほか掃除や洗濯、買い物など家庭生活において多くの役割を担っている傾向があり、家事労働時間も男性より多くの時間を使っています。また、そうした家事や子育てなどのいわゆるアンペイドワーク（無償労働）が評価されていないことも問題となっています。

誰もが家庭生活と仕事の両立を実現するためには、「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識を解消することや、男性が家事・育児に対する意識と能力を高めることが必要です。また、長時間労働の抑制、育児・介護休暇制度の取得促進など、就労環境の整備も重要となってきます。区民や事業者へ固定的な性別役割分担意識の解消やワーク・ライフ・バランスの重要性について啓発し、事業所内での育児休業、介護休業取得に向けた仕組みづくりや機運醸成が求められます。

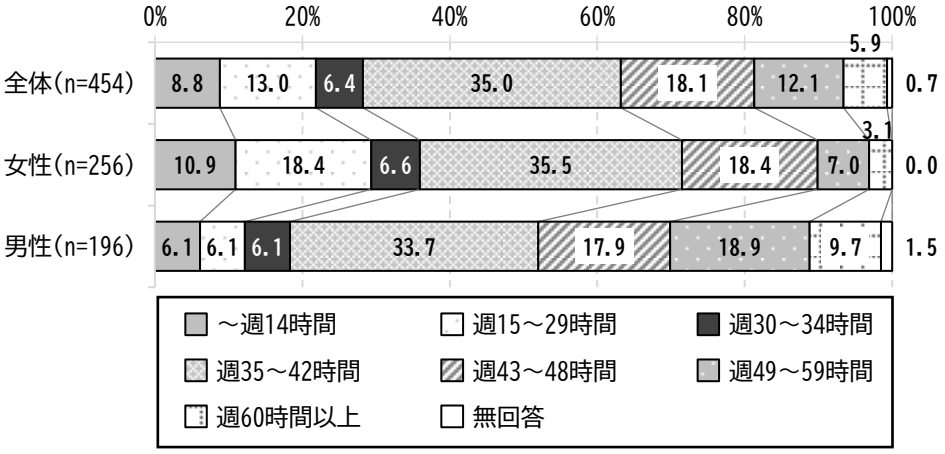
施策の方向の考え方

●区内の事業者及び在勤者に対し、情報提供等を通してワーク・ライフ・バランスを促進・啓発します。また、ワーク・ライフ・バランスについて積極的な取組みを展開する事業者に対しては、認定制度による顕彰を行い、先駆的な取組みを区内に周知します。

●仕事と子育ての両立を支援するため、子育て施設や子育て支援事業の充実を図ります。

●介護サービスの充実を図り、介護離職することのない環境づくりを進めます。

◇１週間あたりの平均労働時間



資料：豊島区「男女共同参画社会に関する住民意識調査」（令和２年）より

ワーク・ライフ・バランス等に関するグラフが入ります。

指　標

評価指標名	データの根拠	現状値 （令和３年度）	計画目標 （令和８年度）
●●●●●●●●●●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	●%	●%

施　策

施策⑭ ワーク・ライフ・バランスの推進

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策⑮ 子育て支援の充実

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策⑯ 育児と仕事を両立させるための環境整備の推進

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策⑰ 介護を支える環境整備の推進

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策の方向３ 政策・方針決定過程における男女共同参画の推進

現 状 と 課 題

男女共同参画を推進するためには、家庭や地域、職場などあらゆる分野の意思決定過程に男女が共に参画し、双方の意見が平等に反映されることが重要になります。国においては、指導的地位に占める女性の割合を 2020 年代の可能な限り早期に 30%程度とすることとしていますが、国際的に見て未だ低い水準であり、女性の参画をさらに拡大させる必要があります。

豊島区では、区内企業において管理職に占める女性の割合が 10%以下である企業が多く、区の職員でも女性管理職の割合は 20%台にとどまっています。また、区の附属機関や審議会等への女性の参画についても取組みを進めていますが、今なお女性委員の割合は全体の 4 割弱となっています。

女性の政策・方針決定過程への参画は、多様な視点や新たな価値観を取り込むことになり、女性だけでなく、男女が暮らしやすい持続可能な活力ある社会の実現につながります。そのためには、女性管理職のロールモデルの提示や女性のキャリアに対する意識啓発を行うとともに、柔軟な働き方の促進など、女性が働きやすい環境づくりを推進することが重要になります。また、男性が積極的に家事・育児に参加することで、家事や子育てを分担するなど、女性の負担を軽減できるような取組みも必要となります。

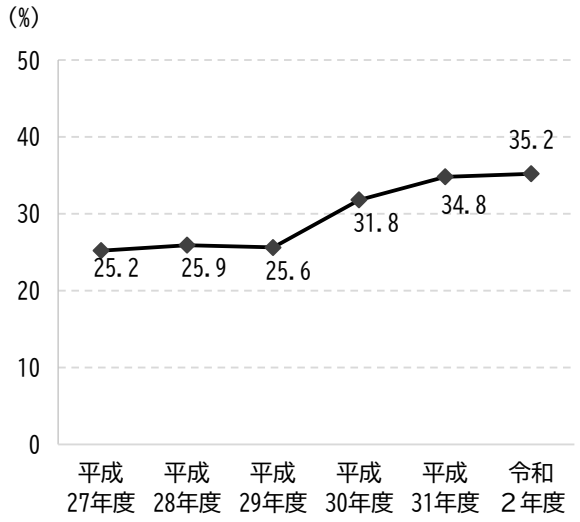
施策の方向の考え方

●区の政策・方針決定過程の場において、女性の登用を促進し、男女の構成員比率がどちらかに偏らないよう働きかけを行います。

●女性リーダーの人材育成や女性のキャリアデザインに関する講座を開催し、女性のエンパワーメントを支援します。

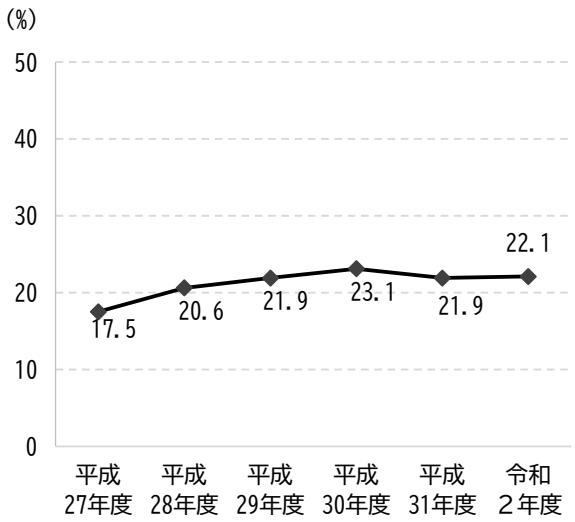
●女性職員の管理職への積極的な登用を推進するため、昇任試験への受験勧奨を行うとともに、職員一人ひとりのライフイベントに応じたキャリア形成を支援します。

◇審議会等の女性委員の割合



資料：豊島区企画課調べ

◇管理職に占める女性管理職の割合



資料：豊島区人事課調べ

政策・方針決定における女性の登用状況等に関するグラフが入ります。

指　標

評価指標名	データの根拠	現状値 （令和３年度）	計画目標 （令和８年度）
●●●●●●●●●●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	●%	●%

施　策

施策⑱ 政策・方針決定の場への女性の積極的な登用

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策⑲ 管理・監督者への女性の積極的な登用と職域の拡大

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

目標３　すべての人が男女共同参画を学び、行動できるまち

施策の方向１　学習・啓発による男女共同参画意識の向上

現状と課題

一人ひとりが多様な生き方を選択でき、個性や能力を発揮するためには、固定的な性別役割分担意識の解消や人権の尊重を基本とした男女共同参画に関する意識の形成が必要です。

区民意識調査によると、「男は仕事、女は家庭」という考え方に否定的な認識を示す区民の割合が増えています。また、「子育ては母親の役割」という考え方を否定する区民の割合も増えており、固定的な性別役割分担意識や性差に対する偏見を否定する考え方が広まっている状況からも、区民の男女平等・男女共同参画意識が向上していることが伺えます。

一方で、社会通念・慣習・しきたりや政治の場、職場の中などでは、未だ男性が優遇されているとの認識が多くなっています。また、実態として家庭生活での家事などの分担は、ほとんどが「妻の担当」となっている現状があります。

豊島区では、これまで男女共同参画意識の理解促進を図り、様々な取組みを進めてきましたが、幼少期からの発達段階に応じた教育や啓発が非常に重要です。学校においては、教職員の何気ない言動や学校行事等における役割分担などを通し、意図せず児童生徒に固定的な性別役割分担意識を植えつける場合があることを自覚することが肝要です。

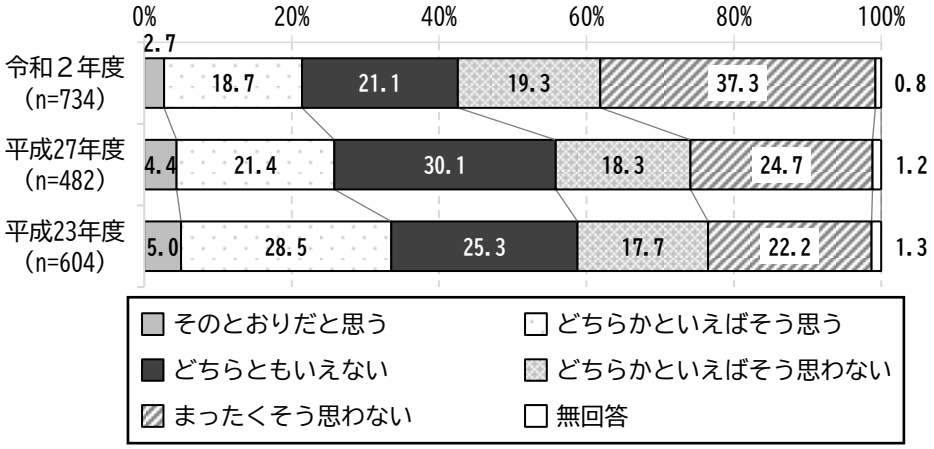
そして、男女共同参画意識の向上にとどまらず、行動につながるよう家庭・地域・職場などのあらゆる場面、ライフステージにおいて男女共同参画意識を啓発し、身近な行動変容を支援するようなきっかけづくりが必要です。

施策の方向の考え方

●教員に対する男女共同参画に関する研修の実施など、学校全体で男女共同参画意識の向上に向けた取組みを推進します。

●より多くの区民が適切な知識や情報を得ることができるよう、インターネットを活用した情報の発信や講座・講演会の実施や区民出前講座など、多様な方法によって男女共同参画意識の普及・啓発を行います。

◇「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する認識



資料：豊島区「男女共同参画社会に関する住民意識調査」（令和２年）より

男女共同参画意識等に関するグラフが入ります。

指　標

評価指標名	データの根拠	現状値 （令和３年度）	計画目標 （令和８年度）
●●●●●●●●●●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	●%	●%

施　策

施策⑳ 学校における男女平等教育・学習の推進

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策㉑ 家庭・地域・職場における男女平等意識の普及・啓発

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策の方向２ 地域活動における男女共同参画の推進

現 状 と 課 題

家庭と同様に、地域は人々にとって最も身近な暮らしの場です。地域活動や防災活動、まちづくりなど色々な分野において男女共同参画を進めることは、様々な視点や新たな価値観が取り込まれることになり、多様性のある社会の構築につながることが期待されます。

「区民意識調査」によると、自治会・町内会やＰＴＡ、ボランティア活動等地域活動への参加は男性より女性が多くなっていますが、町会長やＰＴＡ会長など、活動の意思決定に関わる役職は男性が担っていることが多い現状があります。一方で、男性は地域活動自体への参加が女性と比べ少ない状況です。

地域における男女共同参画の拠点施設である男女平等推進センターは、地域で活動する団体の支援を通して男女共同参画を推進するため、様々な取組みを展開してきました。しかし、「区民意識調査」によると「地域で男女共同参画を推進するための人材育成・団体支援を行っている」ことを、６割以上の区民に認知されていない状況です。さらに、男女平等推進センターも区民に十分に認知されておらず、若い世代を中心に７割以上の区民が知らないという状況です。

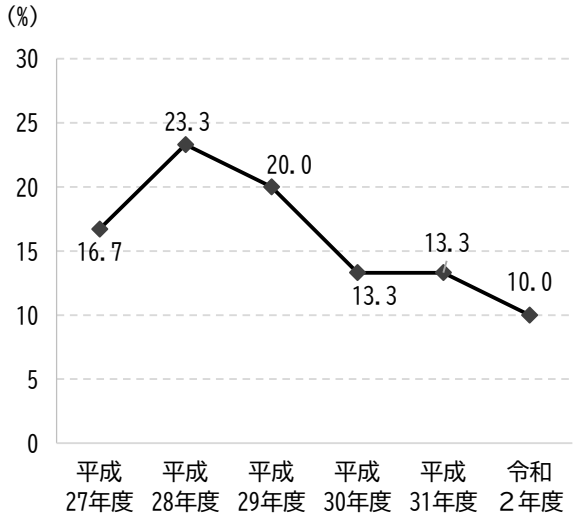
地域における男女共同参画の実現に向けて、様々な地域活動における意思決定の場への女性の参画の促進が求められます。そのためには、地域活動の主体となることが多い地域活動団体に対して男女平等意識を啓発するとともに、男女共同参画に関する活動を行う区民や団体との協働や支援を行うことが重要です。さらに、男女共同参画に関する活動の支援にあたっては、男女平等推進センターが中心となることから、男女平等推進センターやその取組みについての周知も必要となります。

施策の方向の考え方

●地域活動や防災をはじめとする様々な分野において女性の参画を促すとともに、男性に対しても地域活動自体への参加を促し、多様な視点がバランスよく反映されるよう努めます。

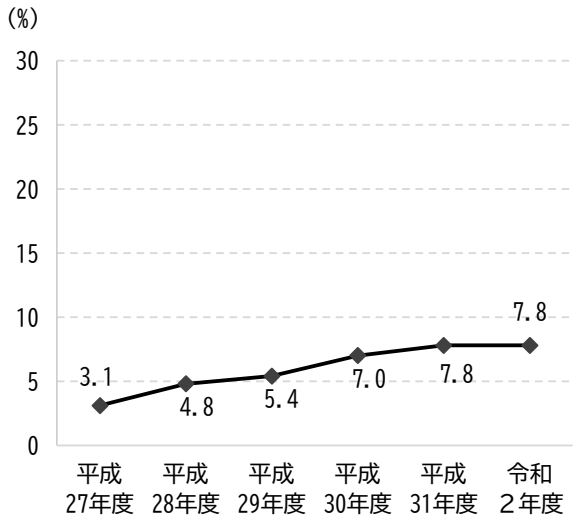
●区民や団体が企画提案の主体となる事業の拡大や交流を推進するなど、男女平等推進センターの機能を充実するとともに、男女共同参画の拠点施設としての認知度の向上を図ります。

◇ＰＴＡ会長に占める女性の割合



資料：豊島区男女平等推進センター調べ

◇町会長に占める女性の割合



資料：豊島区男女平等推進センター調べ

地域における男女共同参画等に関するグラフが入ります。

指　標

評価指標名	データの根拠	現状値 （令和３年度）	計画目標 （令和８年度）
●●●●●●●●●●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	●%	●%

施　策

施策㉒ 地域生活・地域活動における男女共同参画の推進

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策㉓ 自主的な活動への支援とネットワーク化の推進

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

プランの積極的な推進

現 状 と 課 題

男女共同参画の施策は、保健、福祉、労働、教育、防災など幅広い分野にわたります。その施策を総合的かつ効果的に展開するためには、全庁的な取組みを推進することが重要です。そのため、それぞれの施策において、男女共同参画の視点を取り入れた取組みをより一層図れるよう「区職員の意識の

醸成」と「プラン履行に係る体制の強化」を両輪で推進していくことが求められます。さらに、計画の推進にあたっては区民や事業者、ＮＰＯ等に対する広報・啓発の充実を図ることも求められます。

施策の方向の考え方

●男女平等推進センターは、区の男女共同参画を推進する上で中心となる施設です。男女共同参画社会の実現に向け、情報収集や発信、調査、研究など男女平等推進センターの機能を強化します。

●区職員に対して情報提供や研修の実施、意識啓発などを進め、区民や事業者、NPO 等とともに豊島区の男女共同参画を推進するよう、取組みを進めます。

指　標

評価指標名	データの根拠	現状値 （令和３年度）	計画目標 （令和８年度）
●●●●●●●●●●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	●%	●%

施　策

施策㉔ エポック 10 機能の充実

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続

施策㉕ 男女共同参画についての行政職員・教職員の意識形成の促進

事業番号	事業名	事業の内容	所管課	実施区分
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	継続
	●●●●●●	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊。	●●●課	重点継続